



萌えいずる声

百瀬文《聞こえない木下さんに聞きたいいくつかのこと》2013 / シングルチャンネルビデオ / 25分30秒

百瀬文

Aya MOMOSE
An Interview with
Mr. Kinoshita:
Detaching the Voice

手話通訳(音声日本語-日本語手話)あり
文字通訳あり



《聞こえない木下さんに 聞きたいいくつかのこと》上映

シンポジウム

2020.2.9 sun

open 12:30 • start 13:00

京都国立近代美術館 講堂

入場無料 当日12:00より整理券配布

登壇者

岡田温司

Atsushi Okada

木下知威

Tomotake Kinoshita

黒寄想

So Kurosaki

百瀬文

Aya Momose

本橋仁

司会

Jin Motohashi

京都国立近代美術館オーブンデー2020
「ひらきまったり」関連イベント

主催……京都大学 大学院 人間・環境学研究所 岡田温司研究室

共催……感覚をひらく——新たな美術鑑賞プログラム創造推進事業実行委員会、京都国立近代美術館

入場方法

定員100名／入場無料
当日12:00より整理券配布



手話通訳と文字通訳がごさいます。
人数を確認するため、必要な方は2月3日(月)までに以下の問い合わせ先にご連絡下さい。

京都国立近代美術館教育普及室
FAX: 075-752-0509
TEL: 075-761-4111 (平日10:00-17:00)
learning@ma7.momak.go.jp

萌えいずる声

百瀬文

《聞こえない木下さんに聞きたいいくつかのこと》上映 13:00-

+ シンポジウム 13:35-

- ・作家の立場から／百瀬文
- ・指定発言／黒寄想・木下知威・岡田温司
- ・全体討議

わたしたちの生活は声とともにあります。会話をはじめ、映画・アニメーションや歌謡のように、声は人間の表現・意思と深い関係を築いてきました。

その一方で、わたしたちはスマートフォンを手に入れ、インターネットや映像・音響技術の発達によって、ほかの声がかき消えるほどの大声が響き渡る場、強制的に声を発せられている場も身近に感じられるようになりました。そこには、声をめぐる静かな絶望も横わっています。

このように、声はますます複層的な姿を現しています。そこで、声と身体・意思・空間のありようを新たな角度で検証することを目的に、上映とシンポジウムを開催します。

まず、ろう者(手話を主なコミュニケーション方法とする人たち)と聴者が声によって語り合う映像である、百瀬文《聞こえない木下さんに聞きたいいくつかのこと》を上映します。つぎに、作家と3名のコメンテーターによる指定発言と討議を行います。

登壇者



岡田温司
おかだ・あつし

1954年生まれ。京都大学大学院教授。専門は西洋美術史。著書に『映画と黙示録』(みすず書房)『映画と芸術と生と』(筑摩書房)『もうひとつのルネサンス』『ルネサンスの美人論』『モランディとその時代』(以上、人文書院)など。訳書にG・アガンベン『スタンツェ』(ありな書房)、J・クレーリー『知覚の宙吊り』(監訳、平凡社)など多数。



木下知威
きのした・ともたけ

1977年生まれ。日本社会事業大学 非常勤講師。専門は建築計画学、建築史、視覚文化論。幕末から明治・大正期にかけての盲啞学校(盲人・聾啞者が通学する学校)の建築空間・社会・文化を通じて、盲人と聾啞者について考察している。著述に「点字以前」『伊沢修二と台湾』『指文字の浸透』など。



黒寄想
くろさき・そう

1988年生まれ。批評家。音声論をテーマとし、多様な活動を展開している。活動弁士・片岡一郎氏による上映会「シアター13」企画のほか、声優論『仮声のマスク』(批評誌『アーギュメント』)、Vtuber論『ユリイカ』2018年7月号)など。『アーギュメント#2』では編集長、『アーギュメント#3』では仲山ひふみと共同編集を務めた。



百瀬文
ももせ・あや

1988年東京都生まれ。アーティスト、映像作家。ビデオを通して身体と声の関係性を問いかける。近年の主な個展に「I.C.A.N.S.E.E.Y.O.U」(EFAG EastFactoryArtGallery、2019年)、主なグループ展に「六本木クロッシング2016展:僕の身体、あなたの声」(森美術館、2016年)などがある。

京都国立近代美術館 The National Museum of Modern Art, Kyoto

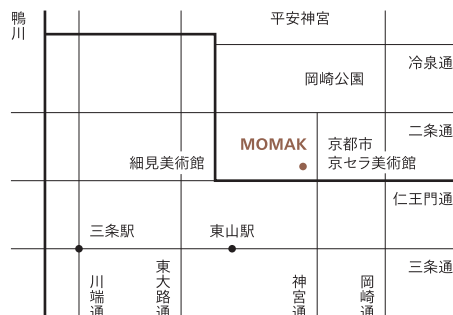
京都市左京区岡崎田勝寺町26-1

京都市営バス——5、46、100番「岡崎公園 美術館・平安神宮前」下車すぐ。

京都市営地下鉄——東西線「東山」駅下車、徒歩10分。

当館には駐車場がごさいません。お車の場合は岡崎公園駐車場(地下)をご利用ください。

※有料入館者は、岡崎公園駐車場の割引(1台につき1回)を受けられますので駐車券をお持ちの上お越しください。



平成31年度 文化庁 地域の博物館を中核としたクラスター形成事業